

「どこでも松平文庫展—24時間デジタル展示—」

開催要項

1 展示概要

福井県文書館では、資料のデジタル化とインターネット上での公開を進めています（「デジタルアーカイブ福井」）。

原本あつてのデジタル資料ですが、来館しなくても閲覧できて、冊子もめくって、巻物もひろげられて、デジタル資料ならではの利点もたくさんあります。

本展示では、デジタル資料として公開されている松平文庫の中から、こんなエピソード、あんなエピソードを“少しだけ”紹介します（結末は、デジタル資料で確認してみてください）。

2 会期・場所

令和2年3月27日（金）～5月27日（水） 福井県文書館閲覧室（観覧無料）

3 主な展示資料

・「国事叢記」（弘化3年（1846）序）

福井藩士田川清介が編纂した藩の歴史書。元禄15年（1702）12月15日早朝、藩の上屋敷に府中領主本多家の屋敷（藩とは別に屋敷を拝領）の留守居が来訪、前夜の本多家南隣の屋敷での〇〇を報告。

・「南越雑話」（上：寛延元年（1748）、中：明和9年（1772）、下：安永10年（1781））

福井藩および越前松平家にまつわる逸話・聞書集。著者は福井藩士村田氏純・氏暢・氏章親子。武士の心得として、ときに著者の意見や感想なども交えながら古例を紹介。

・「福井城図」（文政2年（1819）写）

本丸から三の丸までの詳細図。御屋形や櫓門、堀、石垣などは、他の絵図よりも精細に描かれている。

・「文久三亥雑記」（文久3年（1863））

福井藩による江戸・京都の風説書。2月23日、朝廷、幕府、諸藩、浪人など、諸勢力がひしめきあう京都、229年ぶりとなる将軍上洛をひかえる中、鴨川の河原に〇〇〇〇のさらし首が出現。

・「京華日録」（文久3年（1863）10月18日～12月24日）

松平春嶽（前福井藩主、元政事総裁職）の在京中の日記（在京は10月18日～翌年4月18日）。11月7日に土佐藩の坂下（坂本）龍馬が来訪、春嶽に「〇〇〇〇〇」を言上。

※〇〇の中身を知りたい方は、文書館での展示、または文書館ウェブサイトの展示ページをご覧ください。